

第6回教育委員会会議録

日 時	平成29年5月26日 開会13:00 閉会14:20												
会 場	教育長室												
出 席 者	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教 育 長</td> <td style="width: 50%;">宮 崎 肇</td> </tr> <tr> <td>委 員</td> <td>佐々木 義 朗</td> </tr> <tr> <td>委 員</td> <td>山 田 律 子</td> </tr> <tr> <td>委 員</td> <td>荒 井 由紀恵</td> </tr> <tr> <td>委 員</td> <td>橋 場 正 人</td> </tr> </table>	教 育 長	宮 崎 肇	委 員	佐々木 義 朗	委 員	山 田 律 子	委 員	荒 井 由紀恵	委 員	橋 場 正 人		
教 育 長	宮 崎 肇												
委 員	佐々木 義 朗												
委 員	山 田 律 子												
委 員	荒 井 由紀恵												
委 員	橋 場 正 人												
欠 席 委 員	—												
参 与	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育部長</td> <td style="width: 50%;">島 倉 弘 行</td> </tr> <tr> <td>教育部次長</td> <td>澤 田 徹</td> </tr> <tr> <td>教育部学校指導室長</td> <td>加賀谷 隆</td> </tr> <tr> <td>企画総務課長</td> <td>米 山 伸 哉</td> </tr> <tr> <td>学校教育課長</td> <td>渡 邊 誠 司</td> </tr> <tr> <td>生涯学習課長</td> <td>小野寺 康 広</td> </tr> </table>	教育部長	島 倉 弘 行	教育部次長	澤 田 徹	教育部学校指導室長	加賀谷 隆	企画総務課長	米 山 伸 哉	学校教育課長	渡 邊 誠 司	生涯学習課長	小野寺 康 広
教育部長	島 倉 弘 行												
教育部次長	澤 田 徹												
教育部学校指導室長	加賀谷 隆												
企画総務課長	米 山 伸 哉												
学校教育課長	渡 邊 誠 司												
生涯学習課長	小野寺 康 広												
書 記	企画総務課総務係長 田 中 稔 大												
議 題 及 び 議 事 の 概 要	別紙のとおり												

1 第6回教育委員会会議付議事件及び結果表

平成29年5月26日 13:00開会

14:20閉会

事件番号	件名	議決結果
議案第1号	教育委員会職員の任免について	原案可決
議案第2号	千歳市奨学生の選考及び奨学金額の決定について	原案可決
報告第1号	平成28年度公益財団法人千歳青少年教育財団の経営状況を説明する書類の提出について	報告済
報告第2号	千歳市特別支援教育の推進に係る基本方針について	報告済

2 議題及び会議の概要

教育長	<p>それでは、平成29年第6回教育委員会会議を開催いたします。 議案第1号及び第2号は、個人情報に関する議事であるため、秘密会にしたいと考えますが、よろしいでしょうか。</p>
委員	一同了承
教育長	それでは会議録の承認をお願いいたします。
企画総務課総務係長	<p>平成29年4月26日に開催されました平成29年第5回教育委員会会議は、議案が6件、報告が3件ございました。</p> <p>議案につきましては、議案第1号「千歳市奨学金条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」、議案第2号「千歳市奨学生選考基準の一部を改正する訓令の制定について」、議案第3号「千歳市奨学生選考委員会委員の委嘱及び任命について」、議案第4号「平成29年度学校評議員の委嘱について」、議案第5号「千歳市教育支援委員会委員の委嘱及び任命について」、議案第6号「千歳市立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について」、原案のとおりご決定いただいております。</p> <p>また、報告につきましては、報告第1号「教職員の処分内申について」、報告第2号「学校適応指導教室おあしす通級生の卒業後の進路について」、報告第3号「平成28年度千歳市いじめアンケート調査（第2回）結果について」、報告済みとさせていただきます。以上でございます。</p>
教育長	会議録承認の件よろしいですか。
委員	一同了承
教育長	<p>教育長の報告に入る前に、本日追加の案件がございます。</p> <p>報告の部の第2号に、千歳市特別支援教育の推進に係る基本方針について、担当から報告があります。</p> <p>それでは、教育長報告であります。</p> <p>5月の定例校長会ですが、まず1点目は、平成29年度千歳市学力向上検討委員会の取組ということですが、これまで各学校では、学力向上検討委員会の提言を学校改善プランに位置付けて、望ましい学習集団づくり、授業改善、学習機会の確保などの取組を進めてきております。その結果として、学習規律が保たれた環境の中で授業に取り組む児童生徒や家庭学習に取り組む児童生徒が増</p>

加している状況が見られます。また、授業等におけるICTの活用は普通の光景となってきました。その一方で、その成果が全国学力・学習状況調査の結果に反映されていない状況があります。そこで多くの学校が「標準学力検査結果、NRTですが、全学年偏差値50以上」「全国学力・学習状況調査結果、全国平均以上」という目標を掲げておりますので、学力向上検討委員会としても同様の目標を掲げ、その実現を図るため、役割を強化することです。そのため、今年度については、学力向上に取り組むモデル校を募りまして、学力向上検討委員会の委員にモデル校の教員を加え、モデル校の実情に合った方策を共に考え、実践に参画できる組織という形で、これまでの取組を少し変えて、更なる学力向上を推進したいという考え方です。学力向上検討委員会は、モデル校の取組の成果を短期のスパンで検証して、効果が認められる取組については、市内の小中学校に普及させ、取り組むことをゴールとせず、目標達成に向けた全市的な動きを創り出していくことを期待しているところであります。モデル校は小学校3校、中学校2校ということであります。

次に、特別支援教育、後程詳しく説明いたしますが、特別支援教育の推進に係る基本方針というものを定めました。平成25年度からセンター校（北進）とブロック制（鉄北・鉄南・向陽台）による拠点校方式の特別支援学級の設置を開始しているところであります。実施状況を見たところ、拠点校方式の特別支援学級設置により小集団の学級規模が維持され、子ども同士が関わりあいながら友人関係を構築し、切磋琢磨しながら育ちあう学習環境の形成が進んでおります。また、センター校におけるより専門性の高い教育やブロック校における交流及び共同学習など、多様な学びの場を選択することができる体制が作られており、特別支援学級に複数の教員が配置されることにより、それらの教員が専門家チームとして市内の通常学級の取組を支援する市内体制の充実があるということです。

これらを踏まえまして、今後の千歳市特別支援教育の基本方針、これは、千歳市学校教育基本計画が平成32年度までということになっておりますので、これに合わせて平成29から32年度までということになっていますが、まず1点目は、児童生徒の自立と社会参加に向けて集団生活の中で友人関係の構築、切磋琢磨などで社会性を養う特別支援教育を進める。これまで同様にセンター校におけるより専門性の高い教育やブロック校における交流及び共同学習など、多様な学びの場を選択できる環境を継続、現状の拠点

校方式においては、在籍児童生徒数の増加により小集団の維持が困難となっているという状況も想定されますので、新設校での小集団の形成が見込める場合は、ブロック内で特別支援学級設置校の複数配置を進めるということです。具体的に申しますと、祝梅小学校もかなり特別支援学級の子どもが増えておりますので、場合によっては、祝梅小学校以外に鉄北ブロックは今1校ですけれども、2校目を作るといったことも考えなければならないということです。各学校においては、専門性の向上を図るための研修の充実や個別の指導計画、イエローファイルの作成を進め、組織的な特別支援教育を推進する、大きくはこれが基本方針です。これは、後程報告第2号で説明をいたします。

3点目は、交通違反・交通事故防止の徹底ということで、機会ある毎に教育公務員としての自覚を持ち、安全運転に努めるよう周知徹底しているのですが、5月23日現在で、前年より多いということであります。「周囲の確認不足」や「標識の見落とし」といった気の緩みから事故・違反につながる事例が多いので、各学校においては、教育公務員としての信頼を失うことのないよう、緊張感を持って運転を行うよう指導をいたしました。

4点目は、家庭生活宣言の普及促進の取組ということで、市P連が作成した「千歳市家庭生活宣言」を全校に普及させ、望ましい生活習慣の定着を図るため、平成29年度は各単Pにおいて、この宣言を踏まえ、より具体的で積極的な取組をお願いしているところであります。また、平成29、30年度において、市民提案型協働事業として市P連と市教委の協働による全市的な普及促進に関する新規事業を行ってまいりたいと考えております。

5点目は、平成28年度いじめアンケート調査結果です。昨年に2回分の報告をさせていただきました。この場では、その後に調査した市全体としては、3回目と4回目、内容的には、道の調査と市の独自調査ということで、12月が道、最終的には国に報告がいつておりますが、その調査で、小学校は、全体回答数5,383件のうちいじめをされたのが355件、面談の結果いじめではないと確認した件数352件、いじめの認知件数3件、中学校は、全体回答数2,564件のうちいじめをされたのが24件、最終的にいじめの認知件数は3件、1月は独自調査ですが、小学校は、全体回答数5,383件のうちいじめをされたのが299件、最終的な認知件数1件、中学校は、全体回答数1,728件のうち、いじめをされたのが13件、最終的な認知件数は2件となっております。認知件数については、前回もお話したとおりであります。非常に千歳市は低い。北海道の第

	<p>2回調査における管内4市、これは千歳市を除く平均、小学校5.21件、中学校5.83件と比較しても低い、それから、全国の調査結果による認知件数、全道は小学校13.9件、中学校12.0件、これに比べても低い状況ということで、面談の結果、安易にいじめではないと判断するのではなく、状況を正確に把握し、迅速・丁寧に対応をしてほしいということです。また、いじめを認識しながら放置することのないよう、さらには収束したと思われる案件においても学校全体で見守りを継続するなど、取組を徹底してまいりたいということでもあります。</p> <p>6点目は、校長会の時には話をしておりませんが、その後報告がありましたので、先週の教頭会で話をしている内容で、自転車事故の防止及び交通安全指導の徹底についてということで、4月以降、子どもたちが自転車で転倒し、腕や肘を骨折した事故が2件、周りをよく見ずスピードを出して走行し、車に接触して手首をねん挫した事故が1件、つい昨日か本日もまた報告がありましたが、いずれも学校外での事故ではありますが、これから自転車に乗る機会が増えるため、各学校においては、交通安全指導の徹底、自転車利用についての注意喚起をお願いしたところでありませう。</p> <p>私の方からは、以上であります、何かございますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、議事に入りたいと思います。</p> <p>まず、議案第1号「教育委員会職員の任免について」説明をお願いします。</p>
委員	一同了承（秘密会：原案可決）
教育長	<p>それでは、議案第1号については、決定をさせていただきます。続きまして、議案第2号「千歳市奨学生の選考及び奨学金額の決定について」、説明をお願いします。</p>
委員	一同了承（秘密会：原案可決）
教育長	<p>それでは、原案どおり決定をさせていただきます。</p> <p>それでは、報告の部に入ります。</p> <p>報告第1号「平成28年度公益財団法人千歳青少年教育財団の経営状況を説明する書類の提出について」説明をお願いします。</p>

生涯学習課長	<p>報告第1号「平成28年度公益財団法人千歳青少年教育財団の経営状況を説明する書類の提出について」事業報告書及び決算報告書に基づいて、ご報告いたします。</p> <p>はじめに、公益目的事業のうち、教育事業について、ご説明いたします。1の学習講座開設事業についてであります、(1)サケのふるさと千歳水族館学習事業といたしまして、3事業を実施しております。次にリーダー養成事業といたしまして、(2)ジュニア・リーダー活動事業では、講習会の実施、(3)シニア・リーダー活動事業では、4事業を実施しております。そのほか、(4)自然教室、(5)冬休み体験教室、(6)体験学習を実施しております。</p> <p>2の社会教育関連事業といたしまして、(1)緑の村キャンプ大会、(2)千歳子どもクリスマスの集い、(3)第22回ちとせっ子雪あそびを実施しました。</p> <p>次に、3の教育機関支援事業についてであります、(1)総合的な学習などへの協力、(2)職業体験への協力、(3)「サケの稚魚による子供たちの交流事業」への協力を行うとともに、(4)各種生涯学習関連事業への協力を実施いたしました。</p> <p>次に水族館管理運営事業について、ご説明をいたします。1「サケのふるさと千歳水族館」管理運営事業の(1)常設展示では、6事業を実施いたしました。(2)企画展示では、7回の企画展示のほか、サケの成長過程による季節展示を実施いたしました。(3)各種体験学習及びイベントでは、水族館に興味を持っていただくとともに、会員間の交流を図るため、12事業を実施いたしました。(4)入館者の拡大推進についてであります、水族館のリニューアルから2年目を迎え、7月から10月までの間、開館時間の1時間延長や、テレビ・ラジオやイベント等を通じた広報・PR活動による入館者の拡大に努めたところではありますが、28年度におきましては、夏の台風や初冬の大雪などの影響を受け、入館者数につきましては、目標の34万8千人を下回る259,666人となりました。</p> <p>次に2の年間パスポート個人会員及び法人会員についてであります、会員の加入促進を行った結果、個人会員で10,683人、法人会員で103社となり、いずれも目標を上回る結果となりました。</p> <p>次に情報提供についてであります、サモン君だよりやホームページ・SNS、メールマガジンでありますサモンメールの発行などの活動を実施しております。</p> <p>続きまして、平成28年度決算報告書ですが、説明につきましては、収支計算書の総括表にて、ご説明いたします。</p> <p>I事業活動収支の部につきましては、教育事業と水族館管理運営</p>
--------	--

	<p>事業に係るものですが、表にあります事業活動収入計（A）の合計が、214,311,398円、事業活動支出計（B）の合計が、161,167,649円となり、その差額が、事業活動収支差額（A－B＝C）として、53,143,749円となっております。</p> <p>Ⅱ投資活動収支の部につきましては、設備投資や特定資産等に係るものでありますが、投資活動収入計（D）の合計が3,175,000円、投資活動支出計（E）の合計が2,161,847円となり、その差額が、投資活動収支差額（D－E＝F）として、1,013,153円となっております。</p> <p>次に、Ⅲ財務活動収支の部につきましては、借入金等にかかるものですが、財務活動収入計（G）が0円、財務活動支出計（H）が、53,856,248円となり、その差額、財務活動収支差額（G－H＝I）が△53,856,248円となっております。</p> <p>これらを合算した結果、当期収支差額（C＋F＋I）の合計は、300,654円となり、前期繰越収支差額である213,457円との合計額が、次期繰越収支差額514,111円となっております。</p> <p>28年度決算を総括いたしますと、教育事業では、ほぼ例年通りの実施となっておりますが、水族館管理運営事業におきましては、天候の影響などにより、入館者が目標を大きく下回っており、入館料収入が当初の見込みより少なくなっておりましたことから、水族館運営の経費節減とともに、運転資金不足を補うものとして、市の補助金を増額して対応しているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ただ今の説明に対しまして、ご意見、ご質問等はございますか。</p>
<p>教育長 佐々木委員</p>	<p>やはり団体客は減ったのですね。全体的に団体ツアーが減っているもので、大型観光施設には、団体では来なくなっているようです。変な話ですが、これまで希望していなくてもツアーに入っていたので来ていたようなツアー客がいなくなってきたので、大型施設は目減りしているようです。</p> <p>支笏湖では、個人客が多いので、反対に観光客は伸びています。</p>
<p>教育長</p>	<p>道の駅への来訪者は、前年と比べてどうだったのですか。同じ時期にオープンしている道の駅で増えているのに、水族館では減っているということになると、どうしてなのか、そういう分析が必要なのではないかと思います。</p> <p>それから目標を下回る、目標が34万8千人と言っていますが、前</p>

生涯学習課長	<p>年度の実績は何人だったのですか。その時の目標はいかがですか。</p> <p>前年度は291,850人です。目標は、定かではないですが、達成していて、初年度でしたので、25万人くらいだったと思います。</p>
教育長	<p>前年度は、リニューアルオープンの8月からですので、期間が短いけれども29万人来たということですから、ある意味、2年目に極端に落ちたということになります。それを大雨などの天候不順が理由ということでは、どうなのでしょう。</p> <p>それともう一つは、年間パスポートについて、個人、法人のいずれも目標を上回るとのことですが、特に個人会員が8,000人の目標に対して10,683人とのことですが、前年度は個人会員が18,166人もいたのに、どうして目標を8,000人まで抑えたのでしょうか。</p>
生涯学習課長	<p>リニューアル効果は年々下がっていくという見込みの上で、目標を下げたと聞いています。</p> <p>それにしても1年で急降下しすぎだと思います。年々とは、概ね10年ほどのスパンで下がっていくもので、それをどうして8,000人という目標にしたのかということです。</p>
教育長	<p>役員は充て職だと思いますが、最近は、海外の観光客が減ったなどの話題をかなり耳にしますが、観光に従事する方が役員にあまりいないので、そのような情報を収集できる理事がいた方が良いでしょう。役員の方は、現場にいつも従事している方々では無く、経営の専門的な人があまりいないように見受けられます。入館料はそんなに頻繁に変えることもできないでしょうが、やはり価格設定の考え方というのはきちんとありまして、価格設定が適正なのか意見を出せるような方も必要だと思います。</p>
佐々木委員	<p>28年度の年間パスポートの小学生が1,214人とありますが、市内の小中学生には年間パスポートは無料配布されているので、市外の小中学生ということですか。</p>
荒井委員	<p>これは年間パスポートを購入いただいた数ですので、市外の小中学生となります。</p> <p>年間パスポートがどういう形で購入されているのか、おそらく分</p>
生涯学習課長	

教育長	<p>析してないと思います。管内市外の学校でも、学習活動の一つとして水族館に来ています。確認をしているわけではありませんが、その際に、年間パスポート料金も入館料もそれほど変わりませんから、また来ることがあるかもしれないということで、年間パスポートを買っておくということがあるかもしれません。</p>
佐々木委員	<p>ホームページには、年間パスポートの記述はありますか。 円山動物園の年間パスポートを買う親など、結構多いみたいですよ。2回ほど行けば、元が取れるようですよ。</p> <p>ホームページには掲載しています。</p>
生涯学習課長 教育長	<p>先ほど言いましたが、目標を上回っているという表現をしていますが、実績は、前年を下回っていて、有料入館者も大きく減っています。全体の入館者数も大事ですが、収益には有料入館者数が大事になってきます。</p> <p>北見市に山の水族館というのがあります。こういう施設はリニューアル後にだんだん下がるというのはこの業界の常識ですが、では山の水族館では下がる率がどうなっているか、千歳水族館と比べてどうなのかというところは、一つ参考になります。通常下がるものだから仕方ないではいけない。他はどうなっているか、率の問題もあります。要するに急激に下がるというのは、先ほどあった天候などの外的要因なのか、何か理由があると思います。今年の天候が悪くなければ、来年はその議論をしなければならないと思います。</p>
委員 教育長	<p>よろしいですか。</p> <p>一同了承（報告済）</p> <p>それでは、報告済みといたします。 次に、冒頭申し上げました報告第2号「千歳市特別支援教育の推進に係る基本方針について」説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>千歳市特別支援教育の推進に係る基本方針についてのご説明をいたします。</p> <p>本市の特別支援教育については、平成26年度から実施している千歳市学校教育基本計画を基本とし、推進してきたところでありますが、これを補完するものとして、平成25年度から実施してきたセンター校、ブロック校による拠点校方式による成果と、今日的な課題</p>

に対応する本市の特色を生かした特別支援教育を推進する基本的な考え方などの基本方針を定めました。

この方針につきましては、千歳市学校教育基本計画期間と整合をはかり、平成32年までの方針として定めております。

図左上の緑色の部分ですが、策定の背景として、平成25年度からセンター校、ブロック校による拠点校方式による特別支援学級の設置を開始したことを記載しております。これによりまして、その下に記載のとおり、特別支援学級と通常学級それぞれに校内体制の充実と市内全体で支える組織体制が出来たと考えております。

また、図右上のピンク色の部分ですが、こちらは国の動きを記載しております。国の動きとしましては、1点目として、一人一人に応じた指導や支援、2点目として、障がいのある者ない者の学び合いを通じた相互理解、これを重点課題として示されているところです。

その下の水色の部分につきましては、特別支援学級の児童生徒数について記載しておりますが、一般に言われております自校に特学が設置されていれば、措置替えなどが進むのではないかというようなことにつきましては、本市におきましては4年間で5人に留まっているというような状況でございます。また、今後の児童生徒数の見込みにつきましては、推計が難しいところでございますが、現状の就学前の児童数などの情報も考慮しながら推計したところ、鉄南、鉄北地区に設置しているブロック校においては、今後当市が掲げている10名程度の小集団での教育から、過大規模となる予測が今出てきているところがございます。また、小学校の肢体不自由学級でも児童数が急増していること、センター校である北進小中学校については、一定程度落ち着いている状況があるという記載をしてございます。

これらの状況を踏まえまして、当市が実施している拠点校方式と他市町村で実施している全校方式の効果と課題を比較した内容が真ん中の茶色部分の上の欄に記載してございますが、○を効果、●を課題として、記載しております。その下にこれらを踏まえた今後の展望といたしまして、当市の拠点校方式による小集団指導は、教育的効果が大きいといたしまして、今後も継続することといたしました。

これらを実施していく上での取組として、その下に記載がございましたが、既設校での小集団が過大規模化するなど維持が困難な場合は、分離した場合に小集団の形成が見込めるか考慮しながら、ブロック内で特別支援学級の設置を進めます。

また、肢体不自由学級については、エレベータなどの学校施設の

<p>教育長</p> <p>山田委員</p> <p>佐々木委員</p> <p>学校教育課長</p>	<p>状況などがありますので、これらを考慮して、既存校での集中方式の継続を基本とします。</p> <p>次にあるのが、ブロック制の実施とインクルーシブ教育システムの、双方を実施するという観点で、交流学习及び共同学習を通常学級や居住地校と連携をして推進をしていくこと、そして、最後に通級指導教室については、現在国においても教員の配置数を増加する動きなどがありますけれども、これらの動きを注視し、教員配置が見込まれる場合には、増設を検討していくと、いうこととしております。</p> <p>以上につきまして、基本方針としまして、4分類で大きく分けて、まとめたものが、下のピンク色のところに記載してございます。</p> <p>方針1として、千歳市の特別支援教育の目指す姿、方針2として、拠点校方式による障がいのある児童生徒のための特別支援教育体制、方針3として、就学前から卒業までの一貫した支援を目指した特別支援教育の推進、方針4として、小中学校での取組、こうして区分して定めております。この各方針での取組の詳細につきましては、別添資料に記載のとおりであります。</p> <p>今年度から平成32年度まで、この基本方針に基づき、特別支援教育の充実などに取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>私の方からは以上でございます。</p> <p>今の説明に対しまして、ご意見、ご質問等はございますか。</p> <p>ここ何年間か、特別支援はすごく充実していますね。随分前を振り返ってみますと、隔世の感があります。ありがたいことです。</p> <p>やはりこういう相談窓口には、かなり電話が来るものですか。</p> <p>昨年度では、学校の相談を入れた全体として200件以上来ていますね。本日お配りしました学校の体制については、毎年お配りしているところでございますけれども、特別支援学級をブロック校で設置しておりますので、そのブロック毎に特別支援学級の先生がおりますが、そういった方々が設置していない学校の先生も支援しながら特別支援教育の体制を組んだ中で、相談に当たっているという状況でございます。</p> <p>インクルーシブ教育とは、何ですか。</p>
---	---

橋場委員	<p>インクルーシブ教育は、健常児と障がいのある方が共に理解をし合って、教育をしていくようなシステムのことをいいます。</p>
学校教育課長	<p>要するに、特別支援学級を作らないということです。通常学級の中に、特別支援相当の子も入って、一緒に学ぶということです。</p>
教育長	<p>そのようなことは、可能なのですか。</p>
橋場委員	<p>不可能ではありませんが、相当のマンパワーが必要です。</p>
教育長	<p>障がいと言っても、知能から情緒から、いろいろ多種にわたっており、ものすごく難しいものです。</p>
	<p>例えば、教育支援委員会中で判定をするのですが、ADHDの子どもで、この子は特別支援教育相当だねという判定もあれば、同じADHDの診断を受けていても、この子は通常学級でやれるのではないかということもあって、ものすごく多岐にわたっています。そのような中で、どのように一緒に教室で授業を進めていくかというのは、すごくマンパワーが必要になります。</p>
佐々木委員	<p>障がいのあるような子どもたちは、特別支援教育を受けることによって、成長していく過程で治っていくものなのですか。</p>
教育長	<p>治るといえるか、成長はしていきます。全ての子がどうなのかはわかりませんが、やはりしっかり特別支援教育を専門家の先生から受けることによって、ある程度落ち着きも出てきますし、やはり年齢が上がってくると、そのようになる部分もあります。</p>
	<p>特別支援教育を受けた子どもたちの卒業式に行きますと皆さん立派です。やはり、例えば小学校からの子は9年間の中で育ってきますし、中学校からでも3年間で育ってきている、そこが教育というのはすごいなというところですね。それが、何も手を掛けなければ何も変わらない、ひょっとすると悪くなるかもしれない。</p>
	<p>あとは、よろしいですか。</p>
	<p>一同了承（報告済）</p>
委員	<p>それでは報告済みといたします。</p>
教育長	<p>これをもちまして本日の教育委員会会議を終了します。お疲れ様でした。</p>